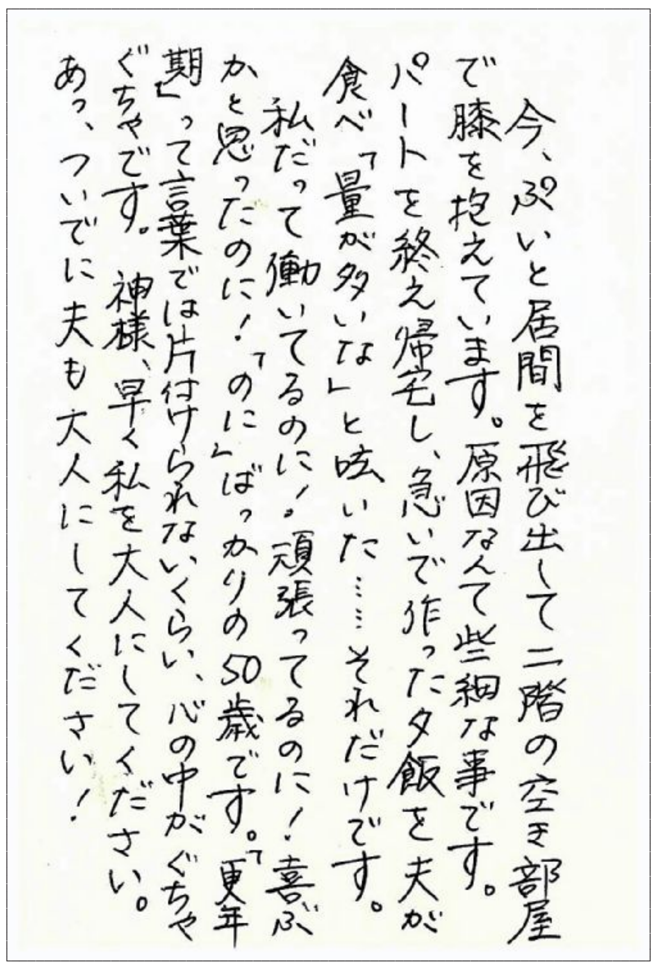
第6回 はがきの名文コンクール

心に生まれた思い ぎゅっと言葉に

「一言の願い」をテーマにつづる第6回「はがきの名文コンクール」が開かれ、2万5千通以上の応募作から21点の受賞作が決まりました。主な受賞者と受賞作を紹介します。

夫の一言に怒り 私を大人にして


今、ぷいと居間を飛び出して二階の空き部屋で膝を抱えています。原因なんて些細な事です。パートを終え帰宅し、急いで作った夕飯を夫が食べ「量が多いな」と呟いた……それだけです。私だって働いてるのに！頑張ってるのに！喜ぶかと思ったのに！「のに」ばっかりの50歳です。「更年期」って言葉では片付けられないくらい、心の中がぐちゃぐちゃです。神様、早く私を大人にしてください。あっ、ついでに夫も大人にしてください！

【大賞】佐野由美子さん（50）三重県

結婚して21年になる。食事の量が多いとは、これまで何度も文句を言われていたことではあった。「昔はよく食べたんですよ。私も『たんとお食べ』という性格なので。ペットも丸々太ります」

忘れもしない、この日はトマトソースのパスタをフライパンいっぱいにつくった。「仕事で嫌なことがあって、気持ちが落ち込んでいた。だから怒りも余計大きかった」と振り返る。

でも、その怒りを直接相手に言うことはしなかった。「長年一緒に暮らしていると、お互いに遠慮はないんです。一方で、こんなつまらないことでけんかしたくないという打算も働く」

コンクールに応募したのは昨年に続き2回目。文章を練り上げた昨年とは違い、怒りをそのままぶつけ、一気に書いて投函した。受賞してからはがきの内容を知らされた夫・司さん(54)は「いつものことやんな」ときょとんとしていたという。21日の表彰式には2人で出席する予定だ。

五木寛之さん　働きつつ家事もこなす女性の違和感が表れていて、みんなが共感できるのでは。微妙な対人関係が表現からにじんでいて面白かった。

コロナ禍 希望につなげる　選考委員講評

選考委員の（左から）斎藤孝さん、五木寛之さん、村山由佳さん

選考委員は作家の五木寛之さん、作家の村山由佳さん、明治大学教授の斎藤孝さんが務めた。

五木さんは「ソーシャルディスタンスを確保する必要があって、『横』にはつながりにくいぶん、祖父母・父母・きょうだいなど『縦』の関係が深まったという印象。祖父母の話、家庭の中での夫婦関係の微妙なあり方が反映されていたと思う」と振り返った。

村山さんは「新型コロナウイルスの影響がある中、最終候補作はそれぞれの状況を絶望ではなく希望につなげていると感じた。どの作品も力作ばかりで絞っていくのが大変だった。大賞作品は、言葉になりにくい不満や鬱屈が詰まっていて好きだった」と話した。

斎藤さんは「短い文章で人を笑わせるのは難しいが、今回の作品には『くすっとさせる何か』がかなりあった。一方で濃度が高い作品にもひかれた。その人が生きてきた時間が、はがきという限られたスペースの中に詰まっているのがとても良かった」と話した。

きょう奈良で表彰式

奈良県御所市にある葛城一言主神社には、一言の願いであれば何でもかなう、という言い伝えがあります。神社近くにある「郵便名柄館」が、はがきの名文コンクールの宛先でした。21日、同県橿原市のホテル「THE KASHIHARA」と郵便名柄館で表彰式を行います。

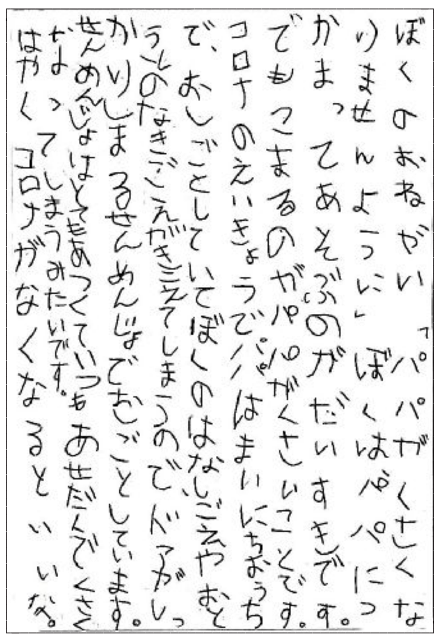
■そのほかの受賞者

【佳作】ドァン・タィン・トゥイさん（東京都）▽安田直子さん（長野県）▽高橋文利さん（静岡県）▽首長英子さん（埼玉県）▽森山恵子さん（新潟県）▽浜崎嘉己さん（兵庫県）▽松本陽子さん（埼玉県）

【日本郵便大賞】植木舞衣さん（埼玉県）▽原口環さん（京都府）▽高山大輝さん（宮城県）▽花摘麻理さん（神奈川県）▽加藤直美さん（埼玉県）▽藤原昌美さん（滋賀県）▽感王寺美智子さん（福岡県）▽峯田泰彦さん（東京都）▽杉山鋭夫さん（千葉県）▽吉岡昭子さん（奈良県）

受賞作品は近くホームページ（https://www.hagaki-meibun.or.jp/hagaki2020/）に掲載されます。

パパがくさくなりませんように


ぼくのおねがい「パパがくさくなりませんように」ぼくはパパにつかまってあそぶのがだいすきです。でもこまるのがパパがくさいことです。コロナのえいきょうでパパはまいにちおうちで、おしごとしていてぼくのはなしごえやおとうとのなきごえがきこえてしまうのでドアがしっかりしまるせんめんじょでおしごとしています。せんめんじょはとてもあつくていつもあせだくでくさくなってしまうみたいです。はやくコロナがなくなるといいな。

【五木寛之賞】山下翔平さん（5）東京都

これもコロナの弊害なのか。5歳児の悩みは、パパにだっこされるのが大好きなのに、なんだか汗のにおいがするというものだ。

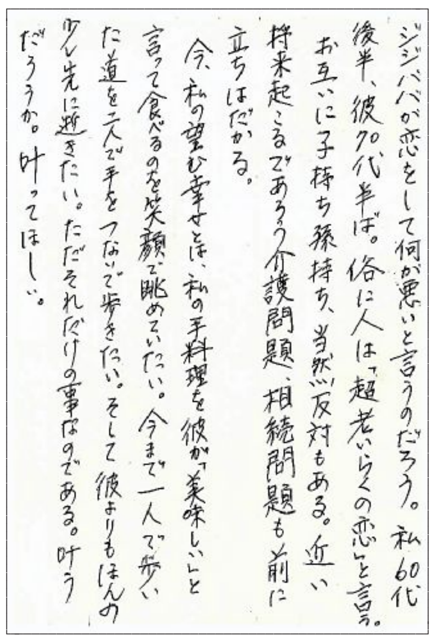
「在宅勤務になり、とくに5～7月はオンラインで採用面接をしていました」と父・智嗣さん(37)は話す。生後5カ月の弟がいることもあり、生活音が届かない洗面所に朝から夕方までこもっていた。「くさいと言われてうれしくはないけれど、これで賞をもらえたと思うと、複雑です」

翔平さんも、通っていた保育園で登園自粛を求められ、数カ月の間自宅で過ごした。ひらがなを覚え、祖父母に手紙を書くようになった。手紙を受け取った祖母の勧めで、コンクールに応募した。何かお願いはある？と聞かれて、真っ先に出てきたのが「パパのにおい解消」だった。

幸い、涼しくなった秋以降は、智嗣さんの汗もひいてきたという。

五木寛之さん　子どもの視点から家庭内における父親が客観的に浮かび上がってくる。切実な状況が描写されていて、父親に対する愛情も感じられた。

孫持ち同士の恋 後悔したくない


ジジババが恋をして何が悪いと言うのだろう。私60代後半、彼70代半ば。俗に人は「超老いらくの恋」と言う。お互いに子持ち孫持ち、当然反対もある。近い将来起こるであろう介護問題、相続問題も前に立ちはだかる。
今、私の望む幸せとは、私の手料理を彼が「美味しい」と言って食べるのを笑顔で眺めていたい。今まで一人で歩いた道を二人で手をつないで歩きたい。そして彼よりもほんの少し先に逝きたい。ただそれだけの事なのである。叶うだろうか。叶ってほしい。

【村山由佳賞】赤間登美さん（70）岐阜県

再婚のプロポーズを、名古屋市の、夜景のきれいな高級レストランで受けた。「映画のワンシーンみたいでした。この人になら、今までの人生で、一番大切にしてもらえると感じた」

共通の知人を介して出会った。当時、赤間さんは岐阜県、男性は関西に住んでいた。遠距離恋愛を続け、数カ月後には結婚を申し込まれた。

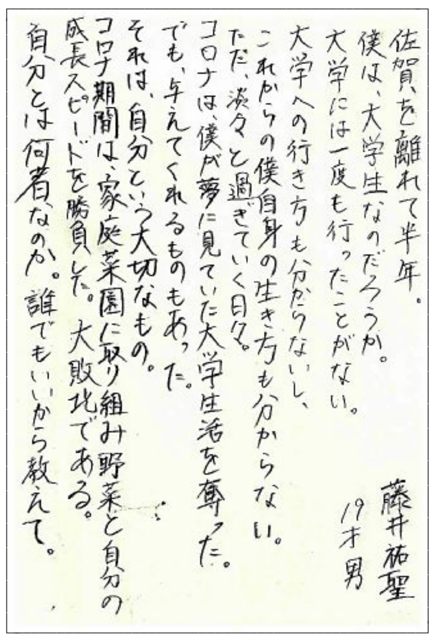
ともにクリスチャン。朝晩、電話ごしに祈りを捧げ、互いの理解が深まったという。赤間さんは子どもが6人いる。じつは男性も子だくさんで、なおさら話が弾んだ。

今年9月に婚姻届を出し、いまは2人で兵庫県に住む。周囲の反対がなかったわけではない。でも、「後悔したくなかった」。

遠距離恋愛をしていたころは振る舞えなかった手料理を、いまは夫が喜んで食べてくれる。それが「本当にうれしい」と話す。

村山由佳さん　どうして我慢しなくてはならないのかという思いに共感した。人を好きになることに、年齢は全く関係ない。元気づけられたらと思い選んだ。

自分とは何者？ 野菜育てつつ問う


佐賀を離れて半年。
僕は、大学生なのだろうか。
大学には一度も行ったことがない。
大学への行き方も分からないし、これからの僕自身の生き方も分からない。
ただ、淡々と過ぎていく日々。
コロナは僕が夢に見ていた大学生活を奪った。
でも、与えてくれるものもあった。
それは、自分という大切なもの。
コロナ期間は、家庭菜園に取り組み野菜と自分の成長スピードを勝負した。大敗北である。
自分とは何者なのか。誰でもいいから教えて。
藤井祐聖
19才男

【斎藤孝賞】藤井祐聖さん（19）東京都

今年4月に大学に入学したが、少なくとも今年度は、すべてオンライン授業と決まった。「一日中ずっとパソコンを見ていると、自分は何をしているんだろうと」。故郷の佐賀県から上京したものの、授業を受けるだけなら佐賀県にいても十分だった。

時間はある。住んでいる学生寮の敷地の一角を借りて、祖父母の影響でなじみのある野菜づくりを始めた。「野菜の成長って、めちゃくちゃ早いんですよ。どんどん丈が伸びて花が咲いて。比べて、自分は何も変わっていない」

言いたいことはたまっていたけれど、言う相手もいない。そんな中、郵便局で見かけた広告でコンクールを知り、はがきを書いた。

夢見たキャンパスライフとはほど遠いが、「寮の仲間とはめっちゃ仲良くなった」。家庭菜園ではいま、ホウレンソウとのらぼう菜を育てている。

斎藤孝さん　大学教員なので、学生の鬱屈した気持ちがよくわかる。自分のアイデンティティーがどこにあるのか不安定な感じが表れている。

主催　はがきの名文コンクール実行委員会　**協力**　日本郵便、奈良県御所市　**後援**　文部科学省、総務省、朝日新聞社

◇この特集は興野優平が担当しました。

人と地球に貢献します
eco rica®
年賀状で里帰り。
余った年賀状はエコリカちゃんに！
今年も送ってね
エコリカちゃんへ年賀状を送って100万円お年玉が当たる！
【1等】100万円（Visaギフトカード）1名
【2等】10万円（Visaギフトカード）5名
【3等】1万円（Visaギフトカード）10名
【4等】1,000円（QUOカード）100名
【5等】エコリカちゃん保冷ランチトート 300名
期間：2020年11月1日㊐～2021年1月11日㊊
【応募方法】エコリカちゃんに年賀状を送っていただいた方の中から抽選で豪華賞品が当たります。詳しくはエコリカWEBサイトでご確認ください。
●ご応募1枚につき1円を地球環境保護団体WWFに寄付いたします。
＼さらに！／ 5,000円が当たるTwitterキャンペーン
抽選で毎週5名様・総勢30名様に5,000円Visaギフトカードが当たる！
詳しくはエコリカ公式アカウントへ→
株式会社エコリカ @ecorica_inc
ず～っとNo.1※ 互換インクシェア
エコで安くて高品質。
エコリカリサイクルインクカートリッジ
エコリカは全国の家電量販店などに設置している「エコリカ回収BOX」で使用済み純正カートリッジを回収し、リユース（再使用）しているリユース・リサイクルインクカートリッジのパイオニアです。カートリッジをそのまま再使用しているので製品自体がとっても「エコ」、プリンターとの相性も抜群です。もちろん純正品との混在使用もOK。製品化できなかったカートリッジも再生プラスチックなどにリサイクルしています。そんなエコリカ製品は厳しい環境基準と品質基準をクリアし、国等による環境物品等の調達の推進に関する法律「グリーン購入法」の適合商品です。高品質と万全のサポート体制で、安心できるブランドとして創業以来ず～っと純正品以外のインクカートリッジ市場でシェア1位のご愛顧をいただいています。ぜひ年賀状印刷はエコリカをお選びください。
純正カートリッジを回収→再使用
地球環境大賞 第18回「地球環境大賞」フジサンケイビジネスアイ賞
第1回「エコマークアワード2010」銀賞
グリーン購入に取り組んでいます。GPN 第20回グリーン購入大賞 大賞受賞
※互換インクカートリッジ（リサイクル品・汎用品）の全国販売シェアとしてBCN（2005年～現在）、GfK（2009年～現在）の実売データより自社集計。【エコマーク認定商品】エコリカリサイクルインクカートリッジは、エコマーク新基準「再生インクカートリッジ」の承認第1号です（第08142001号）。【グリーン購入法適合商品】2001年4月に施行された、グリーン購入法が定める基準をクリアした環境に配慮した商品です。【商品連動型寄付】エコリカは製品の売上げ1個につき1円を世界約100ヶ国で活動している地球環境保全団体WWFに寄付しています。●本製品は対応プリンターメーカーの純正品ではありません。●製品ラインナップと対応プリンター情報はエコリカWEBページをご覧ください。
株式会社エコリカ ecorica.jp
エコリカは5つの安心サポート
1 すぐに繋がる！電話接続率約98％
2 専任スタッフが即時対応
3 万が一の故障にプリンター修理代金保証
4 いざという時の故障に豊富な代替機貸出
5 土・日・祝・年末もサポート 0120-114-865 月～土 9時～18時 日・祝 9時～17時 12月31日まで、年始は1月5日から
お買い求めは、家電量販店、PC専門店、カメラ量販店、ホームセンターなど全国6,000店舗以上で。